チュウヒ　*Circus spilonotus* Kaup

【選定理由】

主に越冬期、伊勢湾北部および三河湾沿岸部に飛来して越冬し、その一部が繁殖する。ねぐらや繁殖地の環境は沿岸部の干拓地や埋立地および河川下流部などに存在する広いヨシ原であるが、近年県内のヨシ原面積は激減している。2011 年の東日本大震災以降、沿岸部ではソーラーパネルや風力発電の設置が急速に広がって、本種が越冬や繁殖のできる環境は激減している。

【形　態】

全長 48～58cm、翼開長 113～137cm の中型のタカ。体色は褐色系が基調だが、全身がほぼ暗褐色のものや頭部から胸にかけてクリーム色のものなど、個体差が大きい。中央尾羽の上面が灰色の個体は雄である。雄は体がやや小さく細身であり、雌は大きめで体や翼が太くみえる場合が多い。飛翔形は、翼を V 字型に保ち低空をゆっくり滑翔することが多い。

愛知県西尾市, 2010 年 1 月 29 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

冬期を中心に伊勢湾・三河湾沿岸のヨシ原や農耕地に生息し、少数が繁殖する。

【国内の分布】

本州以北で局地的に少数が繁殖し、冬期には越冬個体が加わり全国で見られる。

【世界の分布】

バイカル湖周辺とモンゴルから東、アムール川流域、ウスリー地方、日本、ニューギニアに分布し、北方のものは冬期に南下する。

【生息地の環境／生態的特性】

沿岸部のヨシ原を中心に周辺の農耕地や湿地、河川敷の草地などを含む広い行動圏を持ち、主にネズミ類や鳥類、魚類、両生類、爬虫類などを捕食する。営巣は湿潤なヨシ原の地上で行われ、ヨシを積み重ねて巣を作る。冬期はヨシ原でゆるやかな集団ねぐらを形成し、広いヨシ原の中に点々と散って夜を過ごすが、多い時には 1 箇所のヨシ原で数十羽が生息するねぐらもある。

【現在の生息状況／減少の要因】

木曽川河口周辺、名古屋港周辺、矢作川から矢作古川の沿岸部周辺、豊川河口周辺、汐川干潟および田原埋立地周辺などに生息する。かつては名古屋港中西部の埋立地で何ペアもの繁殖が確認されていた（吉村信紀, 私信）が、現在の尾張地域には繁殖地もねぐらもない。隣県である三重県の木曽岬干拓では 1 ペアが繁殖しており、冬期のねぐらもここにある。現在県内で繁殖しているのは、矢作川河口から矢作古川河口沿岸部周辺で繁殖するものと、田原市周辺で繁殖するものが各 1 ペア程度と思われるが、田原市の埋立地は環境が悪化している。近年は越冬期の個体数も減少しており、繁殖・越冬ともに減少の要因は開発によるヨシ原の減少と、餌場環境の悪化である。

【保全上の留意点】

現在県内に残されているヨシ原の環境を保全することが第一である。

【特記事項】

タカの仲間ではダイナミックなディスプレイ飛翔を行う種も少なくないが、その中で本種のものは最も派手である。営巣地の上空をゆっくり旋回しながら上昇し、時には肉眼で探すのが困難になる程上昇する。その後急降下や急上昇を繰り返すが、時には 1 回転の宙返りをすることもある。

本種は、種の保存法で国内希少野生動植物種に指定されている。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.60-62. 文一総合出版, 東京.

（高橋伸夫）